

IEEE R10 Student. YP. WIE Congress in Sri Lanka 2015

参加報告書レポート

北海道大学 大学院情報科学研究科 メディアネットワーク専攻
札幌支部 北海道大学 SB 稲月 孝裕

1. 概要

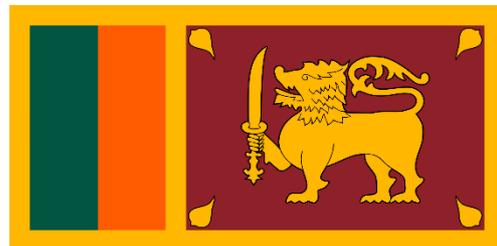
IEEE のアジア・太平洋地域の国々から構成される Region10(以下 R10)は 57Sections,582 Student Branches, 6Councils による約 73,000 人もの会員が所属しており、世界最大規模である。私は北海道大学の Student Branch(以下 SB)の代表として 2015 年 7 月 9 日(木)から 12 日(日)の 4 日間スリランカのコロomboに派遣されることになった。市内中心部に位置する Hotel Galadari が会場とし Student, YP, WIE など多くの参加者の交流の場となった。本稿ではスリランカという文化が全く異なる地域での参加を背景に、Congress の参加に至るまでから実際に参加して感じた事・後輩へのフィードバックなど写真を交えて綴っていく。

2. 参加の動機

私は本 Congress を通じて多くの IEEE 会員との国際交流による意見交換や研究に対するモチベーションを肌で感じる事、IEEE Japan Section 及び Sapporo Section のプレゼンス高める事を目標としていた。自分自身学生時代に経験した、海外での研究と IEEE 北海道大学の SB のチェアとしての活動を経て、異なる考えや言語を持つ人と意見を交換し共有する事の難しさと出来た時の強い達成感の両方を感じることが出来た。その中で本 Congress に参加することで今後の自分自身の研究や SB の活動に良い影響を与えると確信した。勿論、以上の背景が参加動機であるが、開催地がスリランカであるのも大きな要因だった。私自身、紅茶と首都の名前が長い事しか知らないような観光でも訪れたことのない未知の国だからこそ自分自身の好奇心が参加を決意した動機でもあった。

3. スリランカについて

スリランカ(スリランカ民主社会主義共和国)は南アジアのインド亜大陸の南東にポーク海峡を隔てて位置する共和制国家である。首都はスリジャヤワルダナプラコッテ、コロomboは経済の中心地として栄える。1948 年までイギリスの植民地だったことから紅茶(セイロンティー)が有名である。



図：スリランカの国旗

私は 7 月 9 日の羽田空港発の JAL 便にてバンコク・スワンナプーム空港を經由しコロomboに到着した。

4. スケジュール

7月9日(木)

- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Site visit
- 16:30~ Ice breaker and term activities
- 17:30~ Tea
- 18:00~ Preparation for congress opening
- 19:00~ Congress opening remarks
- 19:45~ Intro to setup and events
- 20:00~ Dinner and networking

7月10日(金)

- 06:30~ Breakfast
- 08:00~ Keynotes (5 talks in total)
- 10:30~ Tea
- 11:00~ Workshops (4 workshops in total)
- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Workshops (3 workshops in total)
- 15:30~ Tea
- 16:00~ Keynotes (2 talks in total)
- 17:30~ Preparation for awards night
- 18:30~ Awards night with SL cultural performance followed by dinner

7月11日(土)

- 06:30~ Breakfast
- 08:00~ Keynotes (5 talks in total)
- 10:30~ Tea
- 11:00~ Workshops (4 workshops in total)
- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Workshops (3 workshops in total)
- 15:30~ Tea
- 16:00~ Keynotes (2 talks in total)
- 17:30~ Preparation for multicultural night
- 18:30~ Multicultural performance & exhibition

19:45~ Group photo

20:00~ Dinner

7月12日(日)

- 06:30~ Breakfast
- 08:00~ Keynotes (3 talks in total)
- 09:30~ Panel discussion
- 10:30~ Tea
- 11:00~ Workshop
- 11:30~ Closing ceremony
- 12:30~ Sharing gifts and depart
- 13:00~ Lunch
- 14:00~ Site visits and airport transfers

5. Congress 内容

本 Congress は Today's Youth for a Better を題目に 4 日間の日程では全体で執り行われる Keynotes の他、Student, YP, WIE と複数 Track に部屋を分かれたワークショップも開催されていた。この章では Student として参加した私の目線より印象に残ったいくつかのプログラムを紹介する。



図 : Hotel Galadari の入り口前

初日に行われたアイスブレイキングではその人々の熱気を肌で感じる事が出来た。複数のチームに分かれ、各々のチームに与えられた各国の民族衣装の特徴などを議論する。相手のチームはその情報を基に紙と

テープを駆使し、より正確に民族衣装を再現するというゲームだ。私たちのチームでは韓国の伝統衣装を再現しようと誰もが主体的となって行動していたと感じた。しかしながら途中までルールをあまり把握していなかった私は比較的受け身の姿勢になってしまったことを反省していた。



図：チームで製作した民族衣装



図：ワークショップの様子



図：チームでの写真

2日目に開催された **Keynote** の一つである”**Networking Be a Better Performer**”のセッションでは **IEEE** の活動の基礎であるネットワークの必要性やどのようにネットワークの機会を創出するかについて議論した。ネットワークの必要性に関しては「人々の生活を豊かにするため」「一人で学ぶ事には限りがある」など意見が出た。一方、機会創出の場に関しては「友達の誕生日」「SNS」「**IEEE** を含めたボランティア活動」「社会に出る事」など意見が出た。特筆すべきは200人前後の参加するこのセッションで堂々と発言する海外の学生のやる気に圧倒された事だった。重要なのは英語の能力ではなく、主体的に会議に参加、自分の意見を強く押し通す事なのではないかと改めて勉強する事が出来た。

3日目で印象に残ったセッションは **Prof. Michael Lightner** 氏による”**Humanitarian activities in IEEE**”だった。このセッションでは自然災害・人的災害・経済格差など人類が直面するいくつかの課題に対して人的援助・経済援助などの手法についての説明を踏まえた上で **IEEE** では人道主義プロジェクトに関心のある人々によって構成される大規模なグローバル組織であると位置づけつつも災害援助の寄付をしていない事、**Region** によって活動が異なる事を強調した。その中で2010年に **IEEE** と **ASME**(米国機械学会)が連携をとり **E4C(Engineering for Change)** という名の人的援助・経済援助の両方を活動領域とする組織の設立に合意した。以上のセッションを通じて学問の発展の為に **IEEE** の価値観が大きく変わったと共に **IEEE** の活動に関してさらに勉強する必要があると感じた。



図：セッションの様子

4 日目でのセッションでは Dr. Ajith Amarasekara 氏による”Preparing yourself to be a global employee”が印象的だった。日本を含め世界の企業でグローバル化が加速する中自分自身がグローバル人材になるヒントを説明するセッションであった。異なる文化や価値観を持つ人々と上手に仕事をするためには「相手の文化を知る事」「自分に自信を持つこと」「専門家とのネットワークを構築する事」を軸に相手とのコミュニケーションが必要である事を訴えていた。エンジニアの国籍が多様だからこそもっと互いに尊敬し理解する事が必要であると氏は語っていた。

6. 5.以外で学んだ事・後輩等に伝えたい事

本 Congress には各国の学生と交流する場が多く、ワークショップ以外にもティータイムやホテル内での会話、カルチャーセッションなどでは多くの学生との交流が経験できた。私が期待していた意見交換や研究に対するモチベーションを肌で感じる経験は全てこれらの国際交流にあったと感じる。ホテルに到着して間もなく Registration とチェックインを済ませた後、私は隣接するプールに行き明治大学の津村君と東京理

科大学の安井君の 3 人と有意義な時間を過ごした。というのもスリランカはインドの南東に位置し海洋からの激しい海風により湿度が高く北海道に住む私にとって外出するのが億劫になるほどだった。海岸沿いは波が非常に高い影響から立ち入る事が出来なかったのもプールを頻繁に利用した理由でもあった。



図：部屋からの眺望



図：ホテル内のプール

全体を通して感じたのは、Congress のタイムテーブルも基本的に 30 分から 1 時間は遅れて進行している事だった。しかし、それにも拘らず時間を厳守しているのは日本人くらいだったと感じた。その他ホテルに関して言及すると Wi-Fi が非常に弱く接続するのにフロントまで足を運ぶ事が多かった。ルームキーが毎回誤作動を起こし、持っているカードキーが使い物にならなくな

る事もあった。加えてホテルの料理は毎回カレーが登場し腹痛になるなど、正直日本での生活を比較すると不便と感じる時が多かった。逆にこれがスリランカという国なのだとは感じた。同時にその文化を受け入れ、溶け込む事が必要だと確信した。それ以降は必要以上に請求されたり常軌を逸した運転をするタクシーに乗せられたりしても文化の違いとして楽しむ事が出来た。



図：Hotel Galadari 全景

また、日程の殆どがホテル内で執り行われた事から多くの友人との交流が経験できた。その多さに圧倒されインド人なのかパキスタン人なのかスリランカ人なのかバングラデシュ人なのか困惑する事も多かったが、共通して言えるのがどの学生も積極的に相手を知ろうとし、英語が上手でない私にきちんとレベルを合わせて会話している印象だった。その為私も仲間に入って会話を楽しむ事が出来た。



図：ティータイムでの写真



図：Awards night での写真

特に **Culture Night** では日本が最も目立った瞬間だった。自国の文化を紹介するコーナーには習字や折り紙や漫画、駄菓子やワサビ・抹茶など外国人が想像する日本の文化を用意した甲斐があったのか 12 時を過ぎても参加者がいなくなるほどの人気であった。私はパキスタンのコーナーを訪れ、ヘナタトゥーという「ヘンナ」という染料を用いた主に女性の体に施される入れ墨に挑戦した。相手の文化を知る以上に日本の文化を英語で説明する事の難しさを感じながらも、真剣に聞き入る多くの参加者を見て、非常に有意義な時間になったと感じる。



図：民族衣装をまとったメンバー



図：Culture Night での写真



図：日本の文化紹介コーナー

また、各国の音楽を披露するパフォーマンスにおいて日本は沖縄の三味線を用いた島唄の生演奏に挑戦した。前日の夜から練習する程の気合いの入った演奏でWIEのチェアと勤める橋本 隆子さんにも登壇して頂き一緒になって熱唱する事が出来た。素晴らしい演奏をして頂いた Tokyo YP の西宮先生にはこの場で感謝致します。演奏披露後に感じたのは日本に比べて他国の演奏には派手さがあつた事であつた。実際に私はインド人のダンスにハマってしまい、見知らぬ人と音楽を楽しんでいて気づけば深夜になるくらいだった。もし次回以降に演奏するのであれば日本の文化に即しながらも盛り上がる演奏を期待したい。

次回の Congress に参加を希望している

学生へのアドバイスとしては自国の文化や習慣を良く知る事と相手が誰であっても自分の意見を強く主張する気概を持つ事を大切にしてほしい。私は英語力の話ではないと感じた。勿論、話せる方がコミュニケーションには不自由ないのだが、相手に伝える知識がないのであれば本末転倒だ。日本人には空気を読むような文化も存在するが相手は何もわかってくれない。自ら主張し、時には自分の意見を押し通すくらいの気概を持って臨むことが出来ればこの本 Congress をもっと有意義な時間にする事が出来ると確信した。是非後輩諸君には日本を代表しているという気持ちをもって参加を決断してほしいと願っている。



図：Japan Council による島唄の披露

7. 観光について



図：ホテルに到着

空港から市内までの移動は主にタクシーを手配すれば勝手に連れて行ってくれる。40分程度でホテルに到着するほどの距離である。**Congress** は終日ホテル内での開催なので観光する時間を確保するのは難しかったが、合間を縫ってタクシーをチャーターした観光をする事は出来た。コロンボは比較的裕福な家庭が多く私たちがお土産を買おうと向かったショッピングセンターは日本と物価がそれほど変わらなかった。



図：ガンガラーマ寺院



図：独立記念碑の前



図：昼食をとった街角のレストラン

写真の通り、非常に短い時間での観光であったためスリランカ・コロンボという街を完全に知ることは出来なかったものの地元の人が集まる海外沿いの道では人々の温かさに触れることが出来た。後になって知ったことだが、**Congress** 終了後インド人の友人の **Facebook** を見るとコロンボの各地を旅行している写真を見ることが出来た。聞くとところによると観光を含めて航空券を取っているのだ。私たちもそのような考えがあればスリランカという国を 120%楽しむ事が出来たのかもしれない。



図：海外沿いの風景



図：偶然居合わせた子供達

短い時間にも関わらず非常に密度の濃い時間を過ごすことが出来たのも日本のメンバーがいたからこそだと思う。私は唯一 **Sapporo Section** からのメンバーでほとんどのメンバーが初対面であった。仲良くで

きるのか出国前は不安な気持ちになっていたものの、周囲の方々も同様に私を知ろうとする気持ちが伝わってきたのが非常に嬉しかった。異なる **Section** の方々と意見を交わす事が出来たのも本 **Congress** に参加して勝ち取った経験だと確信している。

その他

最後に本 **Congress** に参加するにあたり様々な情報を提供して頂いた大越先生、皆様並びに参加助成金を出して頂いた **Japan Council** 及び **Sapporo Section** の方々にこの紙面を借りて深く感謝いたします。



図：本 **Congress** に参加したメンバーとの集合写

2015年7月22日

IEEE Region10 Student.YP.WIE Congress 2015 参加報告書

-Japan Council Women in Engineering-

IEEE Japan Council WIE Vice Secretary
IEEE Tokyo Young professionals WIE Liaison
永島寛子

1. 概要

IEEE Region 10 Student.YP.WIE Congress はアジア・パシフィック地域 (Region 10) の学生・若手技術者を対象に、お互いのネットワークを深め、知識の共有と自己研鑽を行う場として2年に1度開催されている。2002年から続く IEEE 最大の、Student Branch, Young professionals (以下 YP) , Women in Engineering (以下 WIE) 共催イベントである。8 回目にあたる今回は「Today's Youth for a Better Tomorrow」をテーマにスリランカのコロンボで開催された。参加者は全体で 250 名以上、日本は Tokyo・Kansai・Sapporo・Shikoku セクションから合わせて 12 名参加した。



開催場所：ガラダリホテル (スリランカ、コロンボ) ※ 同ホテルに宿泊

開催日時：2015/7/9～7/12

参加費：200USD

スケジュール概要：

7/9	夕方	Ice breaker・開会式
7/10	AM-PM	IEEE の紹介/現状など、Student/YP/WIE Track
	夜	Gala Night(授賞式)
7/11	AM-PM	複数の講演が同時進行
	夜	Multicultural Night
7/12	AM	閉会式

ドレスコード：

2 日目の Gala Night はビジネスフォーマルな格好でとの指定あり

3 日目の Multicultural Night は国の衣装でとの指定あり

その他のセッションは特に規定はなく、カジュアルな格好で問題なし

2. 全体

大ホールでの講演でも講師が聴講者に意見を求めると次々に声が飛び交い、全体を通じて活気があるセッションが続いた。2日目の朝のネットワーキングについて考える講演は、一言でネットワーキングと言っても新たな出会いを求めるネットワーキングもあれば、今知っている人との親睦を深めるネットワーキングもあり、本 Congress 中に1人でも多くの人とネットワーキングをするというモチベーションを上げるのに最適な講演だったと思う。その他、IEEE Vice President の Lawrance Wong 氏による IEEE Region 10 会員のデータや IEEE WIE Chair の Takako Hashimoto 氏による WIE 活動紹介など、今まであまりデータで見ることがなかった IEEE を知ることができた。今年5月に開催された WIE International Leadership Conference の報告と来年の開催が決定したことも発表された。

全講演の中で最も印象に残った講演は「自信を持つこと」そして「テクニカルリーダーとして挑戦すること」というメッセージを下された Ajith Amarasekara 氏の「Preparing yourself to be a Global Employee」である。本 Congress のテーマである「Today's Youth for a Better Tomorrow」に非常にマッチした講演で、今後エンジニアとして仕事していく上での心構えを見直せた。2003年から2010年の間に人口の数を超えたスマート機器のマジックナンバーは500億と言われているなど、ソフトウェア開発に携わる身として非常に興味のある内容だった。

3. Ice breaker

4チーム対抗のゲームを2つ実施（2つの部屋に分かれて行ったが、別の部屋の参加者に聞いたところ内容は同じだった模様）。紙を飛び石に見立てて上を歩くゲームとある国の民族衣装を紙で作成するゲームを行った。民族衣装を作成するゲームでは写真を見てはいけないため、チームメンバと意見を出し合い、一気に距離を縮めることができた。本ゲームで韓国の衣装を着たおかげで、Congress 中に「Hey, Korean」と声をかけられることもあり、話のきっかけになったと感じている。



4. WIE Track

Region 10 WIE Coordinator の Supavadee Aramvith 氏による Region 10 内での WIE の現状の説明の後、ワークショップとパネルディスカッションが行われた。ワークショップでは、5-6 人のチームに分かれ、チームメンバが興味を持つプロジェクトを成功させるためのアクティビティ・スケジュール・リソースを議論した。私達のチームは「WIE 会員獲得プロジェクト」を考え、セミナーや観光を通じて参加者を集め、最終的に会員数を 100 人以上増やすというプロジェクトを発表した。特にプロジェクト内容に制限はなかったため、医療や健康についてのプロジェクトを発表していたチームもあった。WIE Track の間にシルバースポンサー企業の方がアジアの女性を対象としたアンケートを採っていたのを見て、本 Congress が幅広い国の意見を聞ける場であることを再認識した。

また Region 10 各国の WIE が集まるため、Supavadee Aramvith 氏の呼びかけの下、Region10 WIE Chair Meeting が開催された。各セクションの代表が活動を報告する中、Japan Council 設立 10 周年記念バッチを配布したところ、多くのお祝いの言葉をいただくことができた。ここから Japan Council WIE の活動と Region 10 各国との連携に繋げていければと思う。

タイムスケジュールには「Demonstrate posters related to IEEE activities by SBs, YP and WIE sections」と記載されていたが、運営側に尋ねたところ今回ポスター掲示は Student のみとのことで、JC WIE の掲示は行わなかった。

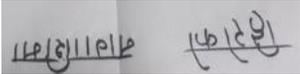


5. Gala Night(Awards Night)

スリランカの伝統的な踊りで開幕した。各国の「Hello」を繋いで作成した「Say-Hello」ムービーも授賞式の始めで流れた。事前に日本のムービー作成依頼があったため作成していたことは知っていたが、完成版は各国の特色がわかるムービーだったと思う。IEEE に貢献した Region 10 メンバーが呼ばれていく中、日本からの受賞者はいなかった。



6. Multicultural Night



文化交流セッションとして、最終日の夜に開かれた。開催国スリランカのボランティアによる演奏や歌の後、事前登録していたチームが舞台上がり、歌や踊りを披露した。踊りは観客から参加者を募るものが多く、当初予定として言われていた1チーム3分を超える盛り上がりだった。日本は沖縄の楽器で演奏して島唄を唄った。

展示ブースでは駄菓子やわさび、けん玉、折り紙、書道などを展示・実演した。特にわさびと書道は人気で、わさび味の菓子は気が付けばなくなっており、書道は自分の名前だけではなく家族の名前を書いて欲しいという人も多く、最後にはホテルのスタッフも並ぶほどに大盛況だった。集計したところ、240枚以上半紙を使っていたことがわかった。漢字で名前を書いてくれたお礼にと、私の名前をヒンディー語とベンガル語で書いて貰った（写真はヒンディー語）。

7. 終わりに

技術に国境はないということを実感することができた4日間だった。本 Congress に参加することで、スリランカはもちろん、マレーシアやインドのセクションの IEEE メンバーと交流することができた。今後は Japan Council WIE Committee メンバーとして、日本国内のみならず海外と連携し、活動を発信していけるようになりたい。

また、Women in Engineering には男性は入れないと思っている人も少なくなかった。Japan Council WIE の男性会員の存在を発信することで、会員数増加に繋げていければと思う。



以上

1 概要

IEEE Region 10はIEEE全体の43万人のうち約11万人の会員数を占めている (57 Sections, 6 Councils, 958 Student Branches)。その中からStudent, WIE, YPから'Today's Youth for a Better Tomorrow'というテーマのもと集まり国際交流を行った。期間は7月9日から7月12日までの4日間であり、スリランカ コロンボのGaladari Hotelで開催された。

2 全体的な印象・感想



国際交流を行うことに加えて、Congressを通じてIEEEの素晴らしさを再確認することができた。コミュニケーションを取るにはほとんど英語を用いたが、中国語が少し出来たので中国や台湾の人とより仲良くなれた。インドの方はスリランカの隣にありSBの数も多くCongressの参加者のかなりの割合を占めていた。セミナーの内容がためになるのに加えて、セッションや食事の時間などで様々な人と交流できることができてとても良かった。スリランカの方はのんびりしている傾向があり全体的にスケジュールが遅れがちで、1、2時間ずれることもあった。スリランカの印象としては、道にはほとんどゴミは落ちておらず全体的に清潔であった。自動車の運転は丁寧とは言えなく、怖いと思ったときもあった。入国審査はビザを提出し、滞在目的と期間を答えただけで終わり、想像よりも厳しくなかった。

3 会場の環境

Galadari Hotelは落ち着いた良い会場であった。前回のCongressは部屋は外国の人と一緒にダブルベットだったと聞いていたが、ツインベットだったので安心した。私のルームメイトはインド人であった。おそらく、国籍がかぶらないように部屋を割り当てているのだと思う。人によっては1部屋を3人で使い、ツインベットとエキストラベッドである場合もあった。また、3つのカードキーのうち、一度に2つしかアクティベートできず不便なところもあった。会場内の冷房が非常に強く体調を崩してしまう人もいた。ホテルの部屋もそうで、私が入った際にはなんと15度に設定されていて寒かった。日本の節電で寒さに慣れていない人は注意する必要がある。食事は、朝昼晩のご飯に加えて、午前午後にお茶の時間があった。どれもbuffestailで美味しく自由に食べることができ、楽しめた。

4 各セッション

Dr. Rajesh Ingleの"Importance of IEEE Student membership & R10 SAC initiatives"では、R10におけるSBの現状や課題について語られた。Dr. Amit Kumarの"Volunteering & Internship Experience"では、ボランティアとインターンシップの例だけではなく、今後のキャ

リアとしてどう利用すれば良いのか具体的に説明してくれて参考になった。Amir Zahoor の”What’s in IEEE for me?”では講演を聞いて後、グループに分かれてディスカッションを行い、最終的にはチームごとに発表を行った。これはSBLTWにスタイルに似ていた。皆がどういったモチベーションでIEEEに参加しているのか、なぜ続けているのかなど意見を共有することができ有意義であった。また、SBの活動報告をポスター発表で行った。私自身は、講演発表しかやったことがなく、今回初めてポスターで海外の方と会話することができて良い経験になった。

5 Multicultural Night



3日目の夜では、自分の国の文化を紹介するMulticultural Performance & Exhibitionがあった。私たちは、ステージでは着物や甚平を着て島唄を歌い、ブースでは習字・剣玉・折り紙などを披露した。習字で名前を書いて上げるサービスが特に人気で22時に終わるはずが、午前1時過ぎまで賑わっていた。ステージ上で島唄を歌ったのが今回最も印象に残っていることである。

6 終わりに

SB、YP、WIEの会員の方々と国境を超えて交流できたことは非常に良い経験になった。IEEEについてより深い理解を得て、改めて素晴らしさを実感することができた。各国の参加者からは様々なことを学ぶことを出来た。この経験を生かし、SBの活動をより活発化させ、日本だけにとどまらず海外でも今後ますます活躍したいと考えている。



**IEEE REGION 10
STUDENT. YP. WIT CONGRESS
参加報告書**

報告者

IEEE Kansai YP chair 立命館大学 電子情報工学科 熊木武志

1. 開催日時, 場所

2015年7月9日~12日

スリランカ, コロンボ, Hotel Galadari

2. Congress スケジュール

Start	End	08 July	10 July	
8:30	8:00			
8:00	8:15			
8:15	8:30			
8:30	8:45			
8:45	9:00			
9:00	9:15			
9:15	9:30			
9:30	9:45			
9:45	10:00			
10:00	10:15			
10:15	10:30			
10:30	10:45			
10:45	11:00			
11:00	11:15			
11:15	11:30			
11:30	11:45			
11:45	12:00			
12:00	12:15			
12:15	12:30			
12:30	12:45			
12:45	13:00			
13:00	13:15			
13:15	13:30			
13:30	13:45			
13:45	14:00			
14:00	14:15			
14:15	14:30			
14:30	14:45			
14:45	15:00			
15:00	15:15			
15:15	15:30			
15:30	15:45			
15:45	16:00			
16:00	16:15			
16:15	16:30			
16:30	16:45			
16:45	17:00			
17:00	17:15			
17:15	17:30			
17:30	17:45			
17:45	18:00			
18:00	18:15			
18:15	18:30			
18:30	18:45			
18:45	19:00			
19:00	19:15			
19:15	19:30			
19:30	19:45			
19:45	20:00			
20:00	20:15			
20:15	20:30			
20:30	20:45			
20:45	21:00			
21:00	21:15			
21:15	21:30			
21:30	21:45			
21:45	22:00			

3. 概要

R10 congress は, IEEE Asia Pacific region (Region 10: R10)におけるフラグシップ的なイベントであり, 隔年で開催される. 2013 年はインドのハイデラバードで開催され, 2015 年はスリランカが開催国となった. 本 congress の目的は IEEE R10 所属の学生 (Student), 若手研究者/技術者 (Young Professional: YP), 及び女性研究者/技術者 (Woman In Engineering: WIE)が集まり IEEE に関する最新の状況を学び議論しつつ, 各国会員との交流を通してネットワークを形成し, 今後の IEEE 活動に活かすものである. 本年のコンセプトは, “Establishing a platform to foster collaborative development (協力関係を発展させるための基盤を構築する事)” であり, Networking, Skill enhancement, Technology Breakthroughs, 及び Woman in engineering, 及び Economic and Social Aspects の項目ごとセッション等が開催される.

4. 詳細報告

Congress のセッションやその関連の中から, 特に印象に残ったものを取り上げ今後の IEEE Kansai における活動の資とする.

4.1 参加登録

R10 SYW congress の参加登録 (Registration)は, 2 段階で行われるので注意が必要である. 1 回目の登録の後に, 下記の様なメールが送られてくる.

/**ここから*****//

Dear Takeshi Kumaki

Thank you for registering.

We have recorded your information. We will get back to you with the results of the selection process by the end of April.

Your reference number : 10325

Please note this down in case you have any future inquiries to be made regarding your registration.

Stay tuned with the latest updates:

Web

Facebook

Twitter

Best Wishes

IEEE R10 Congress Team

Please do not reply to this email. This mailbox is not monitored and you will not receive a response. Contact details are mentioned in the website.

/**ここまで*****

その後数週間して、2回目の registration を促すメールが送られてくる。これにはアクセスコード等があり、記されている URL から詳細を登録して参加費を支払う。

/**ここから*****

Dear Takeshi Kumaki,

Hope this email finds you well.

We are delighted to inform you that you are one of the lucky few to get selected to attend the IEEE Region 10 Student/YP/WIE Congress 2015.

Please visit the following link for the second phase of registration.
<http://r10congress.ieee.lk/Reg-27BD520954B491BCD0716AF55AE.php>

Your Access code : RBU7QFK7SI

Please note the following points when registering;

- You need to use the access code provided to you via email for registration.
- A registration fee of 200 USD will be charged which will include accommodation, meals and congress kit.
- The invitation letter for VISA purposes will be addressed to you including the passport number you provide.
- Once the payment is successfully completed, you will receive a confirmation email. If your payment is successful and still you didn't receive the mail, let us know by sending a mail to "register@ieee.lk" mentioning your access code.
- When the payment is successful, a receipt will be generated. Make sure you print it or save as a pdf.
- For any other queries, mail to "register@ieee.lk"

We are excited to have you with us. Please register soon!

Best Regards

IEEE R10 Congress Team

/**ここまで*****

ただし、登録時期が遅い場合は1段階で処理が終了することもある様である。

4.2 移動

スリランカへは、タイのバンコク経由で入国した。スリランカへの入国はあらかじめETA (Electric Travel Authorization system)を、

ホームページ：<http://www.eta.gov.lk/slvisa/visainfo/weta.jsp>

から登録し (US\$30)、観光目的で入国する。もしくはビジネスビザを取得するために invitation letter を利用する必要がある。これは Subodha Charles, Secretary, IEEE R10 Congress Team から送られてきた。今回は観光目的でETAを登録した。



IEEE REGION 10
STUDENT. YP. WIE CONGRESS 2015
SRI LANKA

14-05-2015

To whom it may concern,
Sri Lankan Embassy or Consulate,

Visa request for IEEE Asia Pacific Student/ WIE/ YP Congress - Colombo 2015

Dear Sir/Madam,

The IEEE Sri Lanka section invites the following person as a delegate for the IEEE Asia Pacific Student/ WIE/ YP Congress 2015 held in Colombo, Sri Lanka, from 9th to 12th July 2015 in Hotel Galadari (64, Lotus Road, Colombo 1, Sri Lanka).

IEEE, a highly renowned non-profit organization, inspires a global community through its highly cited publications, conferences, technology standards, and professional and educational activities. IEEE creates an environment where members collaborate on world-changing technologies – from computing and sustainable energy systems, to aerospace, communications, robotics, health care, and more.

IEEE Region 10 congress brings together members from the Asia Pacific region to network, share ideas and expand their knowledge about IEEE and its operations.

The details of the delegate is as follows:

Name: Takeshi Kumaki
Passport Number: TH2049533

The congress registration fee of USD 200 which the delegate has already paid covers all expenses during the stay, and the delegate will have in his/her possession a round-trip ticket, guaranteeing his/her return home.

Your assistance in issuing visa to this delegate is very much appreciated.

Should there be any clarification required, please contact the Congress chair – Mr. Kavinga Ekanayake (+94 71 648 7689) or Congress secretary – Mr. Subodha Charles (+94 71 443 8868).

Thank You.
Yours Sincerely,



Dr. Ruwan Ranaweera
Affiliation: Chair, IEEE Sri Lanka Section
Tel: +94 77 775 0235
Email: info@ieee.lk

コロンボ到着後は、開催ホテルである Galadari のシャトルバスで移動した。IEEE R10 SYW congress の看板があったことから容易に気付くことができた。



4.3 宿泊ホテルにて

滞在するホテルは、IEEE 会員相互の交流を深める目的で他国の会員と相部屋となる。そのため、積極的な交流と英会話能力が求められる事となる。

また、ホテル内、食事等においても他国の会員は積極的に握手を求めて交流を図っていくのが、日本で行われる学会等と異なるため今後の参加者は心づもりをしておいた方がよい。また、名刺も多めに用紙すべきであろう。



4.4 Ice breaker and team activities (9日 1630 - 1730)

初対面の会員同士の緊張感をほぐすため、Congress の初めにゲームで交流するセッションがある。参加すぐの固い氷を壊すために行われることから重要な時間である。行われたゲームは幾つかのチームに分かれて床にひいた紙きれの上を進んでいくゲームと各国の民族衣装を紙等で組み立て、その出来上りを競うものである。このセッションを経てかなり顔なじみも増え今後のセッションにスムーズにはいる事が可能となった。



4.5 IEEE MGA view on R10 activities (Student/YP/WIE) (10日 0845 - 0915)

初対 R10 にある Student, YP, 及び WIE の活動に関して MGA の観点から説明があった。R10 に所属している国々の中でもとくに重要視しているのは、インド、中国、及び日本であるとの説明があった。



ここで述べられた、日本における戦略は、

- ◆企業との連携強化
- ◆IEEE 会員と YP メンバー相互の交流を図るイベントをより多く開催

であった。

また、日本における最近の出来事として、

- ◆Japan industry promotion workshop の開催
- ◆Industry promotion committee の設立
- ◆Kansai YPAG の設立
- ◆Tokyo MAW の開催

であった。

次に、2004年から2014年の10年間における会員数調査報告があった。会員総数の大きい国から順に紹介された。1位はアメリカであったが、10%の減少であった。2位のインドが92.6%の増加と著しく、日本は4位で16.1%の増加率であった。

2014 Rank	Country	2004 Membership	2014 Membership	% Change Since 2004
1	USA	221,141	198,950	-10.0%
2	India	25,051	48,253	92.6%
3	Canada	15,107	17,896	18.5%
	Japan	12,253	14,231	16.1%
	China	2,883	13,813	379.1%
	United Kingdom and Ireland	8,883	10,971	23.5%
	Australia	5,778	8,193	41.8%
	Germany	5,674	8,137	43.4%
	South Korea	3,791	5,651	49.1%
	Italy	2,146	4,698	118.9%

同期間内で学生の student 会員の調査結果が紹介され、1位はインドの191.8%であった。R10 SYW congressにも、インドの学生が多く、学部生も大学生と同じかそれ以上に参加していた。これは日本との大きな違いであると言える。また、この調査では日本が8位であり、71.3%の増加率であった。

Student Membership Trends in Top Countries

2014 Rank	Country	2004 STU	2014 STU	% Change Since 2004
1	India	11,572	33,768	191.8%
2	USA	28,212	31,374	11.2%
3	China	786	4,238	439.2%
4	Canada	3,206	4,075	27.1%
5	South Korea	998	2,358	136.3%
6	United Kingdom and Ireland	1,593	2,067	29.8%
7	Germany	1,013	1,985	96.0%
8	Japan	1,043	1,787	71.3%
9	Brazil	749	1,781	137.8%
10	Mexico	1854	1,588	-14.3%

続いて、WIE の会員数状況も報告された。昨年との比較であったが日本に関するデータは無く、より多くの女性会員数増加が望まれる。

Women in Engineering (WIE)

May '15

Grade	This Month		Year-over-Year		Region	This Month		Year-over-Year	
	'15	'14	#	%		'15	'14	#	%
Fellow	95	90	5	5.6%	U.S.	2,891	2,846	45	1.6%
Senior Member	595	535	60	11.2%	Canada	332	286	46	16.1%
Member	2272	2171	101	4.7%	Europe, Middle East, Africa	2,220	2,017	203	10.1%
Associate Member	44	43	1	2.3%	Latin America	1,820	1,574	246	15.6%
Graduate Student	2038	1951	87	4.5%	Asia & Pacific	5,667	4,632	1,035	22.3%
Student	7886	6565	1,321	20.1%	Total	12,930	11,355	1,575	13.9%
Total	12,930	11,355	1,575	13.9%					

最後に、YP の会員数照会があったが、これが Region ごとであった。Region10 が最も多いことを紹介していた。

Young Professionals Trends

IEEE
youngprofessionals

Geographic IEEE Young Professionals Membership - May 2015

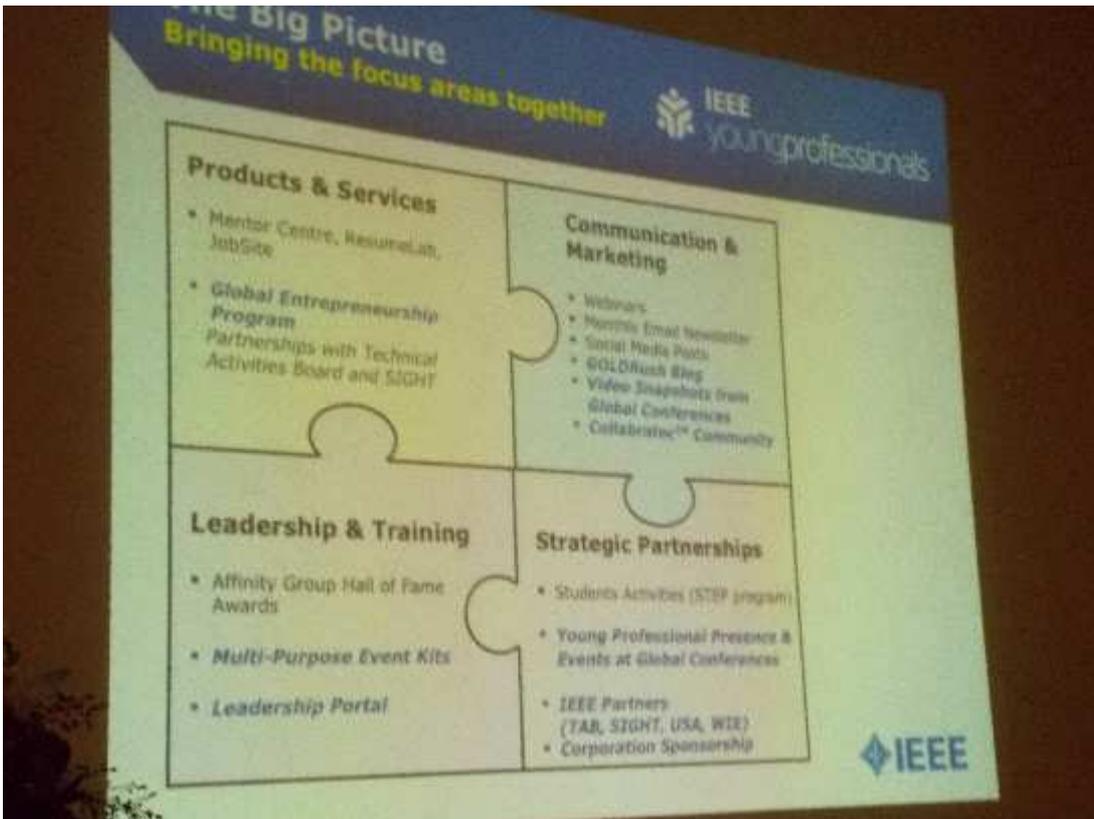
Region	Higher Grade w/o GSM	GSM-STM	Total
1	2,819	1,933	4,752
2	2,511	1,817	4,328
3	2,563	2,226	4,789
4	2,291	1,932	4,223
5	2,917	1,932	4,849
6	5,685	2,991	8,676
R 1-6	16,786	12,831	31,617
7	2,261	2,049	4,310
8	11,112	11,396	22,508
9	2,133	1,578	3,711
10	11,291	13,579	24,870
	26,797	28,602	55,399
	45,583	41,433	87,016

本セッションは、MGA Vice President の Lawrence W.C. Wong 氏の講演であり、講演終了後に IEEE Kansai WIE の奈良先端大学院大学 井上先生と来年開催される予定である、IEEE Kansai MAW に関して参加の打診を行った。参加に関して大変前向きな姿勢であったが、Vice President の任期が今年までのため、行く立場かどうか分からないということであった。ただし、再任されれば来ていただけるとのことであった。本セッションの前に R10 Director の Ramakrishna Kappagantu 氏による講演があり、同じく MAW への参加打診を個なつた、来年 8 月は R10 のイベントがあるので難しいが 9 月なら可能性があるということであった。今後は秘書を通してコンタクトして欲しいとのことであった。



4.5 YP 関連のセッション (9日 1115 - 1545)

この時間帯は、Student, YP, 及び WIE でそれぞれ分かれて関連のセッションが組まれた。YP では、R10 の YP に関する概要と YP 活動を活発化していく上で、Products & Services, Communication & Marketing, Leadership & Training, そして Strategic Partnerships の 4 項目からなる詳細な説明があった。他にグループごとに分かれて YP で起こりうる課題、活動をアクティブにするための方策、学生が卒業後に YP となるようにするには等日本でも問題となっている案件に対して議論を行いその結果を発表しあった。



4.6 Multicultural Night (10日 1700 - 2000)

本 congress は会員同士のネットワークを拡大し、今後の学会活動を活発化する目的が大きく、このセッションでは各国の歌や踊りをステージで紹介しつつ、ブースを設営しそこ、食品、遊具、文具等文化的な物品の紹介を行った。日本からは沖縄民謡を紹介し三線で歌を披露した。





日本ブースでは、竹トンボ、けんだま、及び花札等の玩具を始め、書道のパフォーマンスや駄菓子の試食等を行った。同時に IEEE Kansai YP 等のバナーを張りアピールを行った。書道のパフォーマンスは大変好評であり、外国人の名前をひらがなや漢字で書いてあげる、もしくは本人に書いてもらい日本の文化を紹介するとともに各国会員とのネットワークを構築した。ただし、食品に関してはベジタリアンや宗教上食べられないものがある人もあるので注意が必要である。



2015年7月26日

IEEE Kansai WIE Chair 井上美智子

IEEE R10 STUDENT.YP.WIE Congress 参加報告

スリランカ・コロンボで行われた IEEE R10 STUDENT.YP.WIE Congress 2015 (SYWC2015) に参加しました。開催期間は2015年7月9日～12日4日間、スリランカ・コロンボの Hotel Galadari で行われました。参加したセッション、イベントを中心に会議の様子を報告します。

1. 概要

SYWC2015 は、R10 の Student Branch (SB), Young Professionals (YP), Women In Engineering (WIE) 関係者数 100 人が集まるイベントです。参加者のネットワーク作りと SB、YP、WIE の活動に関するセミナー、情報交換などが行われます。テクニカルな講演だけでなく、実習形式のセミナー、ゲームや文化紹介などによる交流イベントなど様々なイベントが行われました。

会場の Hotel Galadari は、コロンボの高級ホテルで、このホテルのイベント会場 4 部屋 + α を 4 日間日貸し切って行われました。参加者は、2～3 名が相部屋で、部屋割りは主催者が決め、基本、異なる国からの参加者が同室になるようになっていました。

2. 7月9日（1日目）

初日のメインイベントは Ice Breaker and Team Activities というイベントでした。Ice Breaker とは参加者が打ち解けて仲良くなるためのイベントで、異なる国の参加者と無理やりグループにさせられ、流れの速い川を渡るという想定でみんなで協力して対岸に渡るといったグループ対抗ゲーム等を行いました。参加者の多数を

占める SB の参加者は生き生きとゲームをしていました。ただ、私のようなシニアには外から見ているだけという選択肢も欲しかったかなというイベントでした。



シングルセッションの様子

3. 7月10日（2日目）

午前中は、R10 Director, IEEE MGA Vice President など、IEEE や R10 役員の講演があり、午後は、SB, YP, WIE に分かれてのプログラムが行われました。

WIE のプログラムでは、WIE 活動を広めるためのワークショップ（グループに分かれ、WIE 関連のプロジェクトを考えて発表しようという内容）、WIE Session Chair Meeting などが行われました。WIE Session Chair Meeting では、関西支部 WIE の活動報告を行いました。R10 全体では、女性の教育機会の少なさが大きな問題であり、WIE 活動の重要性などが議論されました。

ディナータイムの前には、IEEE 活動への貢献に対し、様々な表彰が行われました。



WIE のプロジェクトを考えたグループ

4. 7月11日（3日目）

シングルセッション、テーマ別の3並列セッションでセミナーや講演が行われました。ネットワーク作りに関するセミナーでは、各テーブルでネットワークの意義、どうやって広げるかなど意見を出し合ってまとめる、また、ペアを組んでアイコンタクトしたまま自己紹介しあうなど、ネットワーク作りの実践演習を行いました。

テーマ別の講演では、**Engineering Ethics** や **Section** や **Affinity Group** の **Chair** と **Treasurer** の責任、業務の違いに関して学びました。IEEE では、入会時に誰もが **Ethics** に関する条項を承認して入会しているという事実は印象的でした。IEEE Code of Ethics は以下から参照できます。

<http://www.ieee.org/about/corporate/governance/p7-8.html>

また、会計に関する責任はすべて **Chair** にあり、**Treasurer** には 報告の義務があるだけということも学びました。

3日目は夕方から文化交流イベントがありました。民族衣装での参加ということで、日本からの参加者も和装で参加しました。イベントでは、各国の歌やダンスを楽しんだり、自国のグッズを紹介するブー

スを出したりして文化交流を楽しみました。日本の参加者は、「しまうた」を合唱し、ブースでは、書道、折り紙、けん玉、駄菓子、わさびなどを紹介しました。前回のレポートにもありましたが、ブースに訪れた人の名前をカタカナにして毛筆で半紙に書くコーナーは大変人気がありました。

5. 7月12日（4日目）

午前中は、キャリア形成や **quality of life** に関する講演などが行われ、お昼で **Congress** が終了しました。午後は、ダウントウンに買い物に行ったり、夜のフライトまで、この **Congress** で出会った様々な人たちとホテルのロビー等で交流しました。

6. まとめ

午前、午後に必ずティータイムがあり、セイロンティーを十分に楽しむことができました。

参加者が多い会議を、スリランカセッションでよくオーガナイズしていたのが印象的でした。高級ホテルに3泊して、宿泊・食費込みで **200USD** という参加費、多くの参加者がビザを必要とする点などを考えると、スポンサーもかなりあったと思われますが、日本で開催するのは不可能に近いのではと思われます。

今回、**SB, YP, WIE** のイベントということで参加者の平均年齢も若く、ゲームや文化交流などのイベントはほんとに盛り上がっていました。学生にとっては、各国の学生と交流するなど、いい経験になるのではと思います。



日本ブースの様子

